

サークルウォッチング

「最初は決まったパートナーなんてイヤだなあって思ったね」と笑いながら切り出したのは、この7月までの交換留学生、グレゴリー・レイムさん(アメリカノウッテンベルグ大学)。「価値観や行動が縛られそうな気がして



左から 山岸さん、グレゴリーさん、保坂さん。  
「アメリカに帰ってもこの友情は変わらないよね〜」。

「語学の上達という目的を超えた付き合いができたとき、分かった気がします」(山岸さん)、「日本の歴史や文化などについて自分なりにどう思つかを伝えられたとき、心が開くように感じました」(保坂さん)。スキルとしての語学を磨きつつ、コミュニケーションの真髄を掴んだようだ。秋学期からは新たな交換留学生が来日。この制度のメンバーでなくても、誰もが自分なりの「LEP」になりたいものだ。

白山キャンパスでの交換留学生のサポート役として、国際交流センターが募集するランゲージ・エクステンジパートナー(LEP)は、02年に発足以来、告知と同時に希望者が殺到する。大人気のプログラム。毎年秋に来日する交換留学生に、それぞれ担当のLEPを配し、定期的な語学学習や学生生活のサポートを行う。

しかし、彼らの存在はとて心強かつたし、むしろ多くの友達や経験が広がった。グレゴリーさんとそのLEPを務めた保坂智美さん(企業法学科3年)、山岸由佳さん(社会学科2年)との会話を聞いているうちに、留学生とそれをサポートする学生、というイメージは完全に蹴された。言葉や国籍を超え、ときにトモアを交えてお互いの弱点をも指摘しながら、尊敬し信頼しあう「親友」なのだ。

## ランゲージ・エクステンジ・パートナー[LEP]

交換留学生サポートプログラム  
(白山キャンパス)

### 「心と言葉」のコミュニケーション!



9/28には07年度第 期の交換留学生18名と初顔合わせ。「日本に来てよかったなあと感じてやるぜ!」(国谷直己さん・教育学科1年)。「特技は書道。まずはパートナーの名前を毛筆で書いてあげたい!」(青木巧さん・英語コミュニケーション学科3年)と、新しいLEPの夢は膨らむ。

サークルウォッチング



様々な色や形の石鹸やキャンドル。「家庭でも簡単に作れますよ」。

約40年の伝統を持つ工学部香料研究会。ここ数年は、香りを生活に取り入れた「簡単に家庭でできるものづくり」を実践中だ。「香りつきの石鹸やキャンドルなど、日々の生活の中でリラックスするための物をつくりたい」と語るのは代表の袖山正幸さん(情報工学科3年)。流行のアロマセラピーなど、香りへの関心は高まるばかり。さぞ部員が賑わっているかと思いきや、現在メンバーは袖山さんと亀田遼さん(応用化学科1年)の2名のみ。新入部員を大募集中である。

工学部文化団体連合が主催する文化祭展メインイベントとなる工学祭での発表。また、アロマセラピー検定など、香りに関する資格取得なども目指している。

工学祭などのイベントに展示するのは、植物から抽出した香料の基になる「精油」を使った作品で、石鹸やキャンドルのほか、香水やバスロフトなどがある。香水づくりは、匂いが強いが長持ちしない、匂いが弱いが長持ちするなどの各精油の特徴や様々な効能を考え、組み合わせを決めていく。先輩譲りの組み合わせ方程式はないので、地道に混ぜて確認するのだという。袖山さんがいろいろと試した結果、お薦めは「ローズマリーとペパーミント」の組み合わせだそうだ。

もうすぐ工学祭。かつて工学部で1、2を誇る部員数の研究会だ。たゆえ、見学にきたOBからは「サークルがなくなつたかと思った」とショックなコメントも。「この取材をきっかけに、サークルの存在をアピールできればいいのですが」と袖山さんは期待を寄せる。これまででない作品として、「香りつきのお湯に手をつけてリラックスするための手湯装置」など新たなものづくりを模索しているようだ。

心と体を癒す香りの世界。工学祭ではぜひ彼らのブースに足を向けて欲しい。そして願わくば「一緒に香りの研究をしてみませんか」。

## 香料研究会

工学部文化団体連合  
(川越キャンパス)

### 香りを取り入れた豊かな生活を



展示会では香水の作り方なども説明。「ここで覚えれば、誰でもオリジナル香水を作れますよ」と袖山さん。